

仙台の中小企業の未来を考える ワークショップ2016実施報告

平成28年7月7日
仙台市経済局

中小企業経営者層等による意見交換会 ～仙台の中小企業の未来を考えるワークショップ2016～

中小企業活性化会議での議論に加え、中小企業経営者層等が複数回に渡って意見交換を行うことにより、中小企業の活性化に向けた具体的かつ実効性のある施策の立案につなげる。

概要

開催場所：アシ☆スタ交流サロン
実施主体：本市及び仙台市産業振興事業団
開催日時：
第1回 7月1日 16:00～18:30
第2回 8月1日 16:00～18:30（予定）

参加者

1グループあたり8～9名、3グループを編成

【参加者内訳】

- 中小企業経営者層 13名
- 活性化会議委員 3名
(池谷委員、浦沢委員、佐々木(美)委員)
- 産業振興事業団 3名
- 市職員 4名

※中小企業経営者層については、中小企業振興団体からの推薦や公募等により選定
※議論が深まるよう各回の参加者を固定

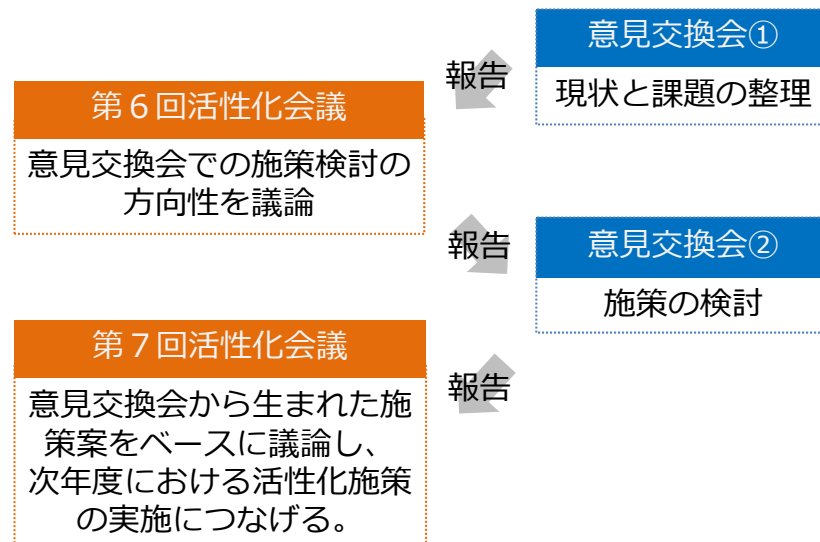
テーマ

地域の成長をけん引する中小企業のチャレンジ促進

- ※グループ毎に以下の切り口で議論を進める。
- 【ヒト】チャレンジ精神を持った人材の育成
- 【モノ】付加価値の高い事業の創出
- 【カネ】新たな資金調達の可能性

進め方

意見交換会での議論内容を活性化会議へフィードバックしながら進める。



テーマ1 「チャレンジ精神を持った人材の育成」の課題

チャレンジ精神を持った人材の育成について、①社会のシステム、②本人の問題、③企業側の受け入れの問題（マネジメント）などの観点から課題が挙げられた。

No.	主なご意見
①社会のシステム	
1	保育の問題（保育所不足、夜間保育等）が女性人材の活躍の妨げになっている。
2	就活への保護者の関わりの強さが子どもの就職先選択の幅を狭めているのではないか。
3	企業が求める人材観と学校教育で輩出する人材観とのギャップ。中高生からの人材育成の必要性。
②本人（被雇用者、求職者）の問題	
1	安定志向。輪をはみ出して人と違うことに挑戦しようとしめない。
2	どういう自分になりたいのか将来の自分像を持っていない人が多い。
3	成功体験が少ないためチャレンジできず失敗を恐れている。
③企業側の受け入れの問題（マネジメント）	
1	仕事の意義を社員に感じさせていない。
2	刺激がない（社内的にも社外的にも外部との接触が少ない）ため人が育たない。
3	研修や勉強のための機会・時間がない。

テーマ2 「付加価値の高い事業の創出」の課題

付加価値の高い事業の創出について、①地域の視点、②顧客ニーズに沿った価値の創出、③発信、④人的リソースのバランスなどの観点から課題が挙げられた。

No.	主なご意見
①地域の視点	
1	大手や首都圏の企業などとの差別化を図るためには、地域密着や地場のものを取り入れるなど、地域性を出すことが重要。
2	地域におけるその分野のエキスパートとなることが、企業価値の向上につながる。
3	販路拡大や新たな事業展開に向けては、ノウハウを隠すのではなく、同業他社と共有し、連携しながら取り組むことが必要である。
②顧客ニーズに沿った価値の創出	
1	顧客に必要な情報を盛り込んだデザインにするなど、顧客にとっての価値を伝える工夫が必要である。一方、デザインを活用するための相談先を知らない経営者は多い。
2	事業や商品の本質、現場、エンドユーザーを知ることで、新たな価値の創出につながる。
③発信	
1	個社では発信力が弱いですが、地域の企業が一体となることで発信力が高まる。
2	地域商品のブランディングには、地域を挙げた取り組みが必要である。
④人的リソースのバランス	
1	新たな事業を展開するためには、既存事業の売上などの保持が前提となるため、新規事業と既存事業の人的リソースのバランスをいかに取るかが課題となる。

テーマ3 「新たな資金調達の可能性」の課題

新たな資金調達の可能性について、①魅力の可視化、②経営理念の重要性、③新しい投資のあり方などの観点から課題が挙げられた。

No.	主なご意見
①魅力の可視化	
1	資金調達においてはいかに外部へ上手く自社の魅力を発信するかが重要だが、自社では外部から見た自社の魅力に気づきにくく、自己PRを上手くできない場合がある。
2	中小企業の多くは情報発信が苦手だが、情報発信に関する補助金等の支援は少ない。
②経営理念の重要性	
1	経営理念は投資の判断基準になるが、中小企業が自力で経営理念を作り上げることは難しい。
2	経営計画を外部から客観的に精査されないと、財務体制の問題に自社では気づきにくい。財務面の課題を認識した上で、売上の季節変動を平準化する等、運転資金の需要を減らす自助努力も必要。
3	金融機関には、財務状況だけでなく、事業性を評価して融資する仕組みが必要である。
③新しい投資のあり方	
1	個社ではなく地域の複数社が連携して行う事業に対する投資が地域活性化の観点から必要である。
2	融資や出資の際、事業性に加えて地域社会への貢献性についても事業を評価する仕組みが必要である。
3	事業承継の円滑化に向けて、いかに資金調達を行うかが課題である。
4	人材獲得・育成に係るコスト増により資金需要が増している。